

幅約20ミリの撚糸機が絶え間なく稼働する工場。
綿糸や和紙をより合わせて強度を高める

一見すると普通の糸だが、触ると滑らかさが伝わる。逆転の発想から、界で脚光を浴びる。は和紙でできています。撚糸業者の伝統技術を改良して生み出した「和紙糸」。紙は水に弱いという先入観を捨て、水分を

備後発 オンリーワン ナンバーワン

月曜日に掲載します

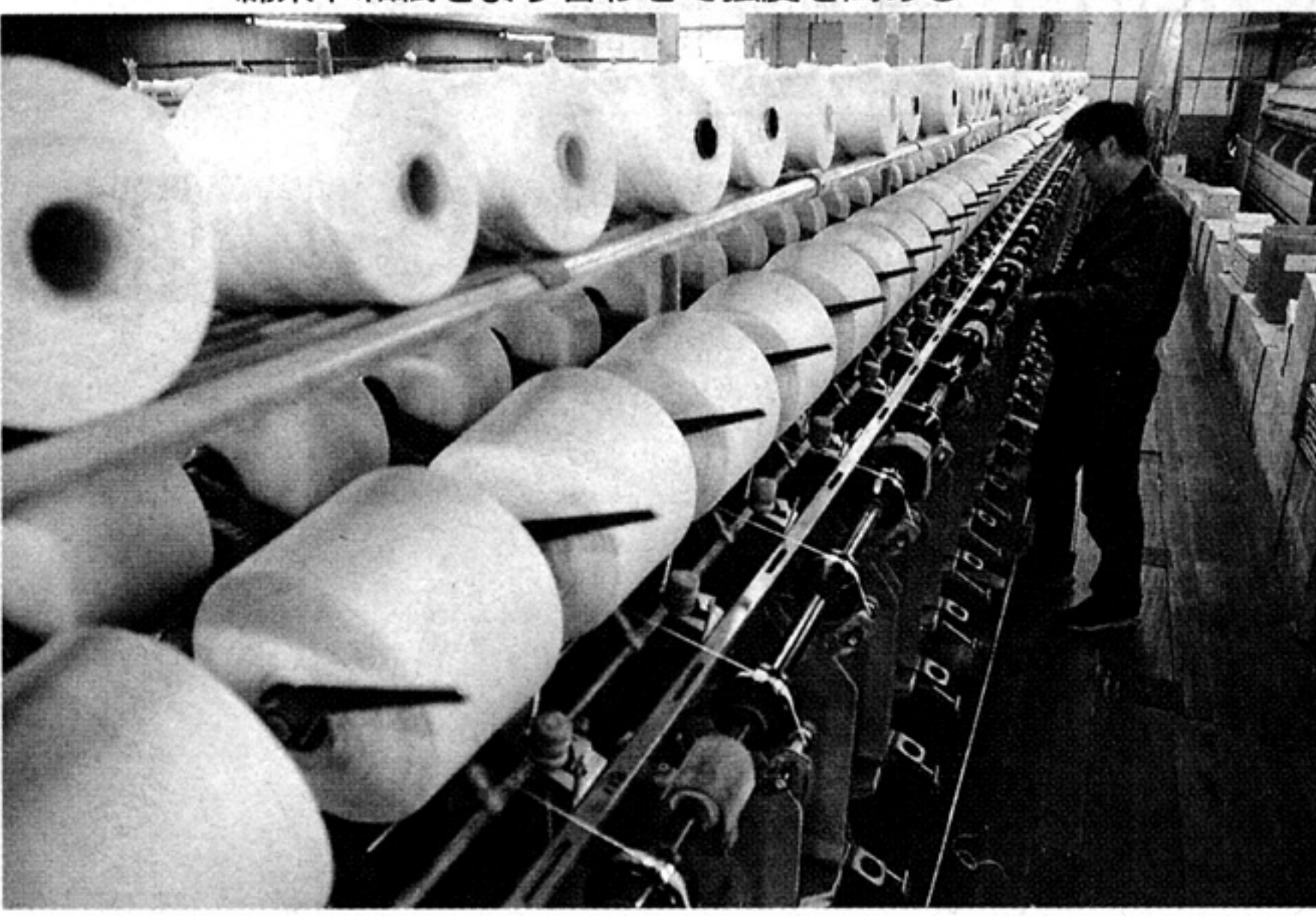
逆転発想 和紙糸生む

含ませた和紙を糸に加工 生まれた技が今、繊維業

幅約一ミリー三十ミリのテープ状和紙が材料だ。特

程を担ってきた。一九九〇年代前半、不況に直撃袋の取っ手の注文が舞い込んだ。「もっと滑らかにできないか」。光成社

は和紙でできています。撚糸業者の伝統技術を改良して生み出した「和紙糸」。紙は水に弱いという先入観を捨て、水分を引く張り上げながらねじられる。生産拠点を中国に移す元請けも相次ぎ、受注が減った。七〇年代前半に四百社に上った県内の同業者は〇三年には約三十社に激減。「業界の灯を消すまい」と光成社長は、前例のない技の開発を模索した。切らさないこと。撚糸機の最適なロータリーを織り込んだ新たな和紙糸を織り込んだ新素材の商品展開が、間近に迫る。



《会社概要》1927年、光成猛社長のおじの故光成源一氏が福山市芦田町で撚糸業を始めた。43年から現社名。45年、同町内の現在地に移転、63年には株式会社化した。従業員20人。資本金2500万円。2006年3月期の売上高は1億8000万円。07年は2億円を見込む。http://www.binnen.co.jp

備後撚糸 福山市芦田町

水含ませて滑らかに

独自の製法は苦境の中で生まれた。創業以来、織布、縫製業者から撚糸を受注し繊維産業の初期工

環境全の機運が高まる中で、市場の広がりの可能性を秘めた商品だと考

トップから



社業の柱に育てたい

光成猛社長(64)の素材との組み合わせなど、アイデアが尽きない。顧客から逆に用途の提案を受けることもある。長年の受託加工で受け身の姿勢が続いてきたが、ようやく自分で価格を決められる仕事を待た。異業種との連携を強めて、将来は和紙糸を社業の柱に育てたい。低迷ムードの続く撚糸業界の励みにもつながるはずだ。

(小島正和)